

ビジョン目標	目標1 住民の理解・参加のもと、圏域の医療福祉ビジョンが描かれている (自助・互助・共助のイメージの共有)	目標2 適切な医療機能の分化・連携が図られている	目標3 年をとっても、認知症になっても、がんになっても、障害があっても地域で最期まで安心して暮らすことのできる地域包括ケア(地域丸ごとケア)のシステムづくりができていく	目標4 住民自らが「生老病死とどう向き合うか」という考えを持ち、地域の医療福祉と主体性を持ってかかわっている	目標5 医療福祉職が働きたくなる魅力ある地域づくり; 地域全体で取り組む人材育成				
団体・機関名	具体策1-③ 市町、関係団体の取り組み(住民参加)	具体策2-⑤ 住民啓発	具体策3-③ 多様な看取りの場(在宅、施設等) 具体策3-④ 各関係団体が実施する住民啓発、多職種連携研修会等	具体策4-① 市民団体の活動支援	具体策4-② 住民啓発	具体策5-① 就業情報等の発信	具体策5-② 人材発掘	具体策5-③ 中学生等への啓発(看護・介護の職場体験等)	具体策5-④ 市民団体等活動支援(人材育成)
東近江圏域 介護支援専門員連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ○(住民が参加する懇談会を開催) ・介護支援専門員連絡協議会での定期役員会にて地域での医療福祉ビジョンを周知し会員である介護支援専門員に周知していくと共に、地域住民を意識した研修会の開催、他団体との共催を図っていく。 ○(住民むけ啓発) ・看取りハンドブックや介護者教室案内の配布周知など、地域住民が活用できる配布物・情報の提供を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○(医療機関の機能分担についての情報発信) ・三方よし研究会ブログ等での情報提供を介護支援専門員連絡協議会としても周知提供していく。 ○(「かかりつけ医を持ちましょう」啓発) ・各介護支援専門員の担当の知人・親戚等でかかりつけ医を持っていない方々への勧め ○(「病院のかかり方」啓発)(緊急時の対応啓発) ・各担当を中心に対応啓発していく。協議会としても有益な情報の発信に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○(病気がいい老化は当たり前意識・ACP) ・各担当を中心に実践していくこと。Dr.先生方との協働により病気等は人生の一部であり特別なことではないこと意識を啓発していく。 ○(多職種連携の場との協働) ・協議会から1名以上は多職種連携の場へ出向き役員間で周知しあい、会員へも周知していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○(ボランティア活動支援) ・地域のボランティア活動状況の把握をまずは行う。その上での当会としての参加と周知を図る。 ○(コミュニティ中心の支え合い) ・地域の活動(三方よし研究会、自治会主催研修)への当協会からの参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ○(エンディングノートの普及) ・各担当を中心にノートの普及啓発を図っていく。当協会としてその普及状況を把握していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○(就職情報発信) ・初任者研修等の機会を当会からも周知していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○(人材発掘) ・職場、多職種連携の場、地域交流の場にて介護支援専門員の魅力を伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○(中学生等へのPR) ・中学生の職場体験は積極的に受け入れていく。啓発の研修、介護支援専門員の魅力を伝える研修を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○(人材育成) ・職場内、また当会でのOJTを中心とした研修を積極的に進めていく。
訪問看護ステーション連絡協議会第4地区支部									
地域から医療福祉を考える東近江懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ○住民が参加する懇話会にて事業企画 				<ul style="list-style-type: none"> ○命のバトン啓発DVD作成、配布・啓発 ○訪問看護師の在宅支援啓発媒体 ★在宅医療・在宅看取り啓発DVD作成(新規) 				<ul style="list-style-type: none"> ○介護初任者研修
東近江行政組合(消防)		<ul style="list-style-type: none"> ○救命講習会や防災訓練など様々な機会をとらえ、住民が迷わず119番通報が必要な状況を広報する。(講話・ポスター・リーフレットなど) 特に、意識状態が悪い、呼吸や脈拍が不安定または停止、多量の出血がある、激しい頭痛、明らかに「重症」と思われる、迷うときはできるだけ早い119番通報を促していく。 これらに該当しない場合は、自らでかかりつけ医への受診をすすめ、土、日曜日、祝祭日の場合は、休日急患診療所への受診もあわせてすすめ、救急車の適正利用を広報していく。 							
近江八幡市	<ul style="list-style-type: none"> ・医療連携部会の開催(1回) ・冊子「住み慣れたわが家で、自分らしい生活を送るためのQ&A」配布…随時 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療福祉ネットワーク会議おうみはちまん”つながりネット”…年6回 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療福祉ネットワーク会議おうみはちまん”つながりネット”…年6回 	<ul style="list-style-type: none"> 市社協実施 ・見守り支え合い活動…40カ所 ・地域福祉(支え合い)…生活支援(10カ所)、移動支援(5カ所) ・子ども食堂…8カ所 ・コミュニティカフェ…9カ所 	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報による特集(例:ACPIについて)…年1回 ・エンディングノートの配布…随時 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の介護&看護合同職場説明会(1回) 			
東近江市	<ul style="list-style-type: none"> <住民が参加する懇談会> ・地域ケア推進会議を地元の関係者に参画いただき、在宅医療福祉の理解を得る機会としていく。 <住民向け啓発> ・コミュニティセンターで開催される講座で在宅医療について啓発していく。 ・市内の7病院、診療所、歯科医院、薬局の待合に在宅医療に関するリーフレットを設置して、市民に理解していただく機会とする。 ・圏域の地域歯科保健調整会議で作成した口腔アセスメントツールをケアマネジャーが使うことで、口腔に関する意識を高めていく。 ・ケアマネジャー対象に口腔機能について研修会を実施して、利用者の自立支援につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターで開催される講座で在宅医療について啓発し、その中でかかりつけ医をもつことについても啓発していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険の新規申請、更新申請、区分変更時に主治医意見書記載に際して、家族に記入いただく問診票に終末期の意志の確認項目を入れて市民への動機づけの機会とする。 ・75歳到達者に保険年金課が主催されるウエルカム事業の中で終活について、考えていただく機会とする。「わたしの生き方」を朗読。 ・自分の人生を振り返り、現状を把握し、今後どのように過ごしたいかを考えるきっかけとして「みらいノート」(東近江版エンディングノート平成30年度作成)活用し、出前講座等で市民に生老病死との向き合い方を考える機会を作る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険の新規申請、更新申請、区分変更時に主治医意見書記載に際して、家族に記入いただく問診票に終末期の意志の確認項目を入れている。 ・75歳到達者に保険年金課が主催されるウエルカム事業の中で終活について、考えていただく機会として「わたしの生き方」を朗読している。 ・自分の人生を振り返り、現状を把握し、今後どのように過ごしたいかを考えるきっかけとして「みらいノート」を平成30年度に作成して、今年度は市民の周知のため出前講座等で市民に周知 				
日野町	<ul style="list-style-type: none"> ・医療や介護への依存から脱却し、自立への目標をもって生活できるよう、支援団体の専門職や支援者、住民のリーダー、住民に対して講演会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護・福祉の多職種連携の研究会の企画・運営に参加し、地域生活における医療・介護の連携について、連携の強化、必要な知識の習得、顔の見える関係づくりを行う。 ・県の取り組みである連携ツールや退院支援ルールなどを、地域の関係者に周知する。また、現場で困っていることなどの声を聞き取り、県における更新作業において提言していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療や介護への依存から脱却し、自立への目標をもって生活できるよう、支援団体の専門職や支援者、住民リーダー、住民に対して講演会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の話し合いがスムーズに進むよう、資料提供、まとめ等を行い、住民啓発の活動を応援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療や介護への依存から脱却し、自立への目標をもって生活できるよう、支援団体の専門職や支援者、住民リーダー、住民に対して講演会を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・町内に住所を有する者で、基準日の前年度以降に介護職員初任者研修を終了し、町内の事業所に介護職として新たに勤務した者のうち、町が定める要件を満たす者に、奨励金を交付する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員初任者研修受講者支援にて、町内に住所を有する者の受講経費に対して補助を行う。 ・関係する各種団体が企画する介護職員初任者研修等の周知を行う。
竜王町	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は、在宅療養研修会として在宅療養に関する講演と、医療・介護・福祉職によるミニシンポジウム及び、認知症キャラバンメイトによる認知症啓発のための寸劇を行った。又、毎年2回開催している。 ・在宅福祉医療ネットワーク会議には2名の住民代表を委員委嘱し住民目線の意見を聴いている。住民向け啓発については、「暮らしのお品書き」の中で、医療機関の一覧表を掲載しており住民に配布している。 ・今年度は、第8期の介護保険事業計画策定に向けて「生活圏域ニーズ調査」を12月に実施予定でありその中で、医療福祉に関する意識調査も入れていく予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会での様々な講座の中で「かかりつけ医を持つこと」の啓発を入れている。住民からの相談に対して、医療機関の機能分担や特徴等について説明し、適切な受診や療養ができるよう助言している。また退院前カンファレンスに包括職員(役場福祉課)が参加しスムーズに退院調整が図れるよう支援している。入退院ルールについて介護支援専門員連絡会にてテーマとして取り上げ、周知徹底を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民啓発:平成30年度の在宅療養研修会。第1部・在宅療養に関する講演と多職種連携のミニシンポジウム。第2部・認知症キャラバンメイトによる認知症啓発。広民から相談に対して、医療機関の機能分担や特徴等について説明し、適切な受診や療養ができるよう助言している。また退院前カンファレンスに包括職員(役場福祉課)が参加しスムーズに退院調整が図れるよう支援している。入退院ルールについて介護支援専門員連絡会にてテーマとして取り上げ、周知徹底を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉(支え合い):平成29年度から「地域のつながりを見る化してみよう」ということで支え合いマップづくりを地域住民の代表者、行政、社会福祉協議会と行っている。今年度も継続する。 ・子ども食堂に関しては2カ所で実施中。コミュニティカフェは町内27地区で開催されており社会福祉協議会が後方支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会、生涯現役事業など高齢者の集まりの場で、「老い支度」の話や、エンディングノートの啓発を毎年実施している。平成31年度には介護予防をテーマに広報に特集記事を掲載し、自らの健康づくりや活動・社会参加の促進について啓発を行う(8月号予定)。 			<ul style="list-style-type: none"> ・毎年9月実施の中学校事業「中学校チャレンジウィーク」にて、町内の介護事業所に中学2年生が1週間介護業務に従事する。昨年度は10月上旬に、デイサービス活動・社会参加の促進について啓発を行う(8月号予定)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職の人材育成として町内介護事業所の介護・看護職員に対して研修を実施している。平成30年度は、認知症ケア研修、高齢者の権利擁護と虐待防止についての講義を実施した。令和元年度も認知症ケア研修、口腔ケア研修会を実施予定。